

# Wonderful Story

理由を知れば、好きになる“EESS”

## 災害時のエネルギー確保に貢献



» 2016年に発生した熊本地震の際には、発電機へ燃料を供給。必要とされた燃料を連続供給できたのは同社のみだった。

迎え入れた。その結果、EESSの売上は高松氏の社長就任時と比べて4～5倍に増え、現在も成長を続けている。

「弊社の強みは”調達力””実行力”，備え“の3つ。”調達力”は、宇佐美グループは、宇佐美グループとの関係性が強いため、大規模災害時でも重油や軽油などの石油製品を十分に確保できることを意味します。”実行力”は、全国53ヶ所の拠点、約530台のタンクローリー、約700名の従業員という規模によって、任務を迅速に遂行できること。主力のパトロール給油とEESSの二毛作事業であることが特徴です。年1～2回の

頻度で、お客様のところへ出向いて合同で行う災害対応訓練も、実行力を支えています”。

これらの強みだけでも圧倒的なシェアを誇るが、3つの強みになっているのが、災害前段階から顧客の要望に応える”備え”サービス。それが、災害前の準備に着目した、口カク

リーンと呼ばれる事業だ。発電設備にはA重油の入ったタンクがあり、使わない期間が長く続くと、タンク内に水分やスラッジ（不純物）、錆などが生じて発電機が稼動しないことがある。それを防ぐためにタンクからA重油を抜き、ろ過した後に戻す方法を考え、自社開発のろ

過装置は特許も取得した。全量の3割をろ過するとタンク内のA重油はほぼきれいになり、3～5年毎に行うことでの発電設備は問題なく稼働する。

「EESSのお客様は、電力会社、電気通信事業、データセンターを保有する企業を中心。特にデータセンターは年々規模が大きくなり増加中です。つまり、私たちが出動しなければ、携帯電話やスマートフォンがつながらなくなるという非常事態も起らなくなるのです。ですから私たち、台風で倒れた木が道路を塞いでいても、木にワイヤーをひっかけて移動させるなど、とにかく運ぶんだという強い使命感で尽力しています。手前味噌ながら”日本の有事にわが社あり”で、災害地で多くの方々に感謝されることが、従業員の大好きな誇りにつながっています”。

また、EESSと同様に期待されているのがバイオ事業である。パトロール給油の主な顧客となるゼネコンから、カーボンニュートラルを実現させたいといいう要望を受けて始めたものだ。



### 災害時の発電設備への給油で、社会インフラをサポート

三和エナジーがさらに飛躍する転機になったのは、2017年長距離トラックを対象に石油製品を販売する宇佐美グループの傘下に入ったこと。その翌年、宇佐美で神奈川支店や山陽支店の支店長を歴任してきた高松氏が、三和エナジーの代表取締役社長に抜擢された。その後、これまで関東や東北を中心とした営業地域を、提携先の開拓や

「弊社は1967年にガソリンスタンドを創業。1970年頃から始まつたみなとみらいの開

年は、西日本最大規模を誇る同

M&Aを通じて全国へ拡大。昨

年は、西日本最大規模を誇る同業のヒラオカ石油をグループに

EESSが生まれるきっかけに災害の激甚化や頻発化が著しい要因にもなる。猛暑や寒波による電力の需給逼迫も、以前より身近に感じられるようになつた。そうした緊急時に燃料供給をサポートしているのが、横浜市に本社を構える三和エナジー株式会社だ。「24時間365日体制で顧客の要望に迅速に対応するEESS（Emergency Energy Support System）がその事業です」と、代表取締役社長の高松克行氏は語る。

この事業を主力としています。

昨今。地球温暖化は豪雨の頻発化に加え、大規模地震を誘発する要因にもなる。猛暑や寒波による電力の需給逼迫も、以前より身近に感じられるようになつた。そうした緊急時に燃料供給をサポートしているのが、横浜市に本社を構える三和エナジー株式会社だ。「24時間365日体制で顧客の要望に迅速に対応するEESS（Emergency Energy Support System）がその事業です」と、代表取締役社長の高松克行氏は語る。

この事業を主力としています。

EESSが生まれるきっかけに災害の激甚化や頻発化が著しい要因にもなる。猛暑や寒波による電力の需給逼迫も、以前より身近に感じられるようになつた。そうした緊急時に燃料供給をサポートしているのが、横浜市に本社を構える三和エナジー株式会社だ。「24時間365日体制で顧客の要望に迅速に対応するEESS（Emergency Energy Support System）がその事業です」と、代表取締役社長の高松克行氏は語る。

この事業を主力としています。

災害時の発電設備への給油需要により建設機械の燃料需要に

合わせて事業を拡大し、現在もこの事業を主力としています。

この事業を主力としています。

この事業を主力としています。

EESSが生まれるきっかけに災害の激甚化や頻発化が著しい要因にもなる。猛暑や寒波による電力の需給逼迫も、以前より身近に感じられるようになつた。そうした緊急時に燃料供給をサポートしているのが、横浜市に本社を構える三和エナジー株式会社だ。「24時間365日体制で顧客の要望に迅速に対応するEESS（Emergency Energy Support System）がその事業です」と、代表取締役社長の高松克行氏は語る。

### Interview

三和エナジー株式会社 代表取締役社長 高松克行・TAKAMATSU KATSUYUKI  
<https://sanwa-energy.com/>



災害時の発電設備への給油需要により建設機械の燃料需要に合わせて事業を拡大し、現在もこの事業を主力としています。

災害時の発電設備への給油需要により建設機械の燃料需要に

合わせて事業を拡大し、現在もこの事業を主力としています。

災害時の発電設備への給油需要により建設機械の燃料需要に

合わせて事業を拡大し、現在もこの事業を主力としています。